

文永の役 関連年表

1273	1271				1269			1268			1267			1266	西暦
文永 10	文永 8				文永 6			文永 5			文永 4			文永 3	和暦
3	11	11 16	10 23	9 19	9	3	1	12	2	1	11	8	1	11 25	月 日
趙良弼、再度来日。大宰府に入京を求めるが、目的を達せず帰還。	趙良弼、大宰府より追放される。	蒙古、国号を元に改める。	国書の写、大宰府から幕府、幕府から朝廷へ奉られる。	日本国信使 趙良弼、筑前今津（博多湾西今津）に到着。翌日大宰少式経資、国書の写を受取る。	朝廷、菅原長成の草案による返書を鎌倉に下すも、鎌倉幕府は返牒せず使者を追放。 大宰府に到着。国書を届ける。	フビライ、島民送還を名目に、蒙古使者 于婁大、高麗使者 金有成らを日本に送る。	黒的・殷弘ら対馬に到着。対馬より大宰府、京都へ国書を伝達。	黒的・殷弘、高麗使者を従え日本へ出航。	朝議にて、蒙古への返書を不可と決議。鎌倉幕府は高麗使節を追放。	潘阜ら博多に到着。国書その他を大宰府に届ける。	高麗使者 潘阜ら一行、対馬に到着。	黒的・殷弘、ふたたび高麗へ。高麗に対して日本招諭に当たるよう命ずる。	両使、巨済島の松辺浦に到着するが、冬の海の風濤に日本行きを断念。引き返す。	フビライが遣わした国信使 黒的・同副使 殷弘が高麗へ到着。日本との通交関係樹立を要求。	できごと

1276		1274										
建治 2		文永 11										
8	3 10	27	11 6	21	20	19	17	16	14	5	10 3	3 13
石築地ほぼ完成。	幕府、筑前沿岸に石築地を築かせる。	元・高麗軍の敗残兵、合浦に帰還。	元・高麗軍敗退の報が京都に伝わる。	敵船、博多湾から姿を消す。敵船一艘志賀島に漂着、二二〇人が捕虜となり将兵五〇余名（六波羅へ連行）を除いて斬首。	元・高麗軍の本隊、百道浜より上陸（龜原、赤坂の戦）。別軍、箱崎浜より上陸（筥崎宮炎上）。終日合戦。夜半、大風雨起り、二〇〇余艘の元・高麗軍船覆没。	元・高麗軍の一部、筑前今津長浜より上陸。	元・高麗軍、対馬来寇の報が京都に伝わる。	元・高麗軍、肥前松浦地方に侵攻。	元・高麗軍、杵岐に侵攻。守護代 平景隆、一〇〇余騎を率いて戦う。平景隆自害。景隆の郎党 宗三郎、博多へ敗戦報告に向かう。	対馬の左須浦小茂田の海上に来寇。守護代 宗助国、八〇余騎を率いて戦う。助国戦死。助国の郎党が急を大宰府に注進。	日本遠征の元・高麗軍、合浦を出航。兵力は、元宋連合軍一万五〇〇〇・高麗軍八〇〇〇・高麗梢工などの計三万の軍兵と、九〇〇艘の軍船。	フビライ、忻都・洪茶丘らに日本征討を命ずる。

【参考文献】

『元寇七百年展目録』福岡市立歴史資料館 一九七四年
 『蒙古襲来700年』日本テレビ放送網 一九八一年
 『元寇物語』田中正喜／著 青雲書房 一九八九年
 『蒙古襲来絵詞解説』松本綾／執筆 貴重本刊行会 一九九六年